



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2008年（平成20年）12月15日号 No. 1449

目次

| | |
|-----------------------------|---------|
| ■ 突貫工事が始まった | 齋藤 大輔 1 |
| ーパイプラインの出口・コズィミノを行くー | |
| ■ トピックス | 9 |
| ローランドがロシアに楽器の販社／9 | |
| モスクワ初のラーメン店がオープン／9 | |
| RBSがモスクワに現法設立へ／9 | |

突貫工事が始まった ーパイプラインの出口・コズィミノを行くー

はじめに

シベリア産の石油をアジア太平洋地域に運ぶパイプライン・プロジェクトの積み出しターミナルの建設工事が、ナホトカ郊外で急ピッチに進んでいる。完成すると、稼動開始時点で1,500万t／年、最大で5,000万t／年の石油を日本や韓国などアジア太平洋地域に輸出することが可能となる。製油所の計画も進行中で、将来はロシア太平洋岸におけるエネルギー資源の一大供給出口の役割を担うことになるだろう。今号では9月末に行った建設現場の視察について報告する。

1. 始まった突貫工事

緑が生い茂る半島の急斜面を一筋の黒い線が延びる。その線は尾根へと近づくとつれて太くなる。木々を伐採した後に現れた黒い山肌は、太陽の光に照らされると、一段と黒さを増す。着工から4カ月。パイプラインの通り道ができていた。その下では、陸揚げされたパイプライン用の鋼管がいまかいまかと出番を待つ（10月下旬に同地を取材した『ロシア新聞』のイリーナ・ドロビシシェヴァ記者によると、パイプラインの敷設が始まったとの由）。

沿海地方ナホトカ市コズィミノ村。ターミナルが建設されているその村は、市中心部から車で40分ほど行ったところのロシア極東最大の港、ヴォストーチヌィ港の近くにある。